

環境報告書2009

Environmental Management Report 2009

《お問い合わせ先》鹿児島大学施設部／〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21番24号
Tel. 099-285-7215
E-mail: kksoumu@kuas.kagoshima-u.ac.jp
URL: <http://www.kagoshima-u.ac.jp/>



◎学長メッセージ

—「進取の精神」で環境問題に取組む—

鹿児島大学学長 最高環境責任者

吉田 浩己

鹿児島大学は平成19年11月に制定した「鹿児島大学憲章」に基づき、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指し、様々な努力を続けております。

二十一世紀が「環境の世紀」といわれ、地球温暖化問題をはじめとする環境問題が世界的な最重要テーマの一つになってきている現状を鑑みると、この環境問題に対しても、教育・研究の両側面から、「進取の精神」を發揮して積極的にコミットし、その解決に貢献していくことは鹿児島大学に課せられた重要な使命の一つであると考えております。また自然豊かなここ鹿児島の地に存する事業所として、CO₂排出を始めとする環境への負荷の軽減にも学生・教職員一体となって引き続き取り組んでいかなければなりません。

鹿児島大学環境報告書の発行は今回で4回目となります。今回の報告対象年度である2008年度は、「鹿児島環境学」の設置、「鹿児島環境未来館における鹿児島市との共同研究」等、鹿児島大学の特徴が現れた環境教育・研究が産声をあげ、今後、更なる発展が期待されているところであります。また、大学の構成員の間に環境に対する意識が一段と芽生えてきており、省エネルギーを初めとする様々な取組が行われているところです。今後は、環境マネジメント体制を更に強化し、引き続き省エネルギー等に取り組んでいきたいと考えております。

私たちは、我が国の近代化の推進者として活躍した鹿児島の先人たちの進取の精神を引き継ぎ、この新しい時代にふさわしいやり方で環境問題に更に積極的に取組んでいく所存です。本報告書が鹿児島大学の環境に対する取組について皆様方の理解を深め、ひいては、環境問題への関心を高める契機となれば幸いです。



2009年9月

1 鹿児島大学環境方針

■基本理念

鹿児島大学は、人類の存続基盤である地球環境を維持・継承しつつ持続的発展が可能な社会の構築を目指す。本学の教育・研究活動及び大学運営においては、これを認識し環境との調和と環境負荷の低減に努める。また地域の環境保全のための教育・研究活動及び社会活動に積極的に取り組み、自然豊かな地域に立地する大学としての責務を果たす。

■基本方針

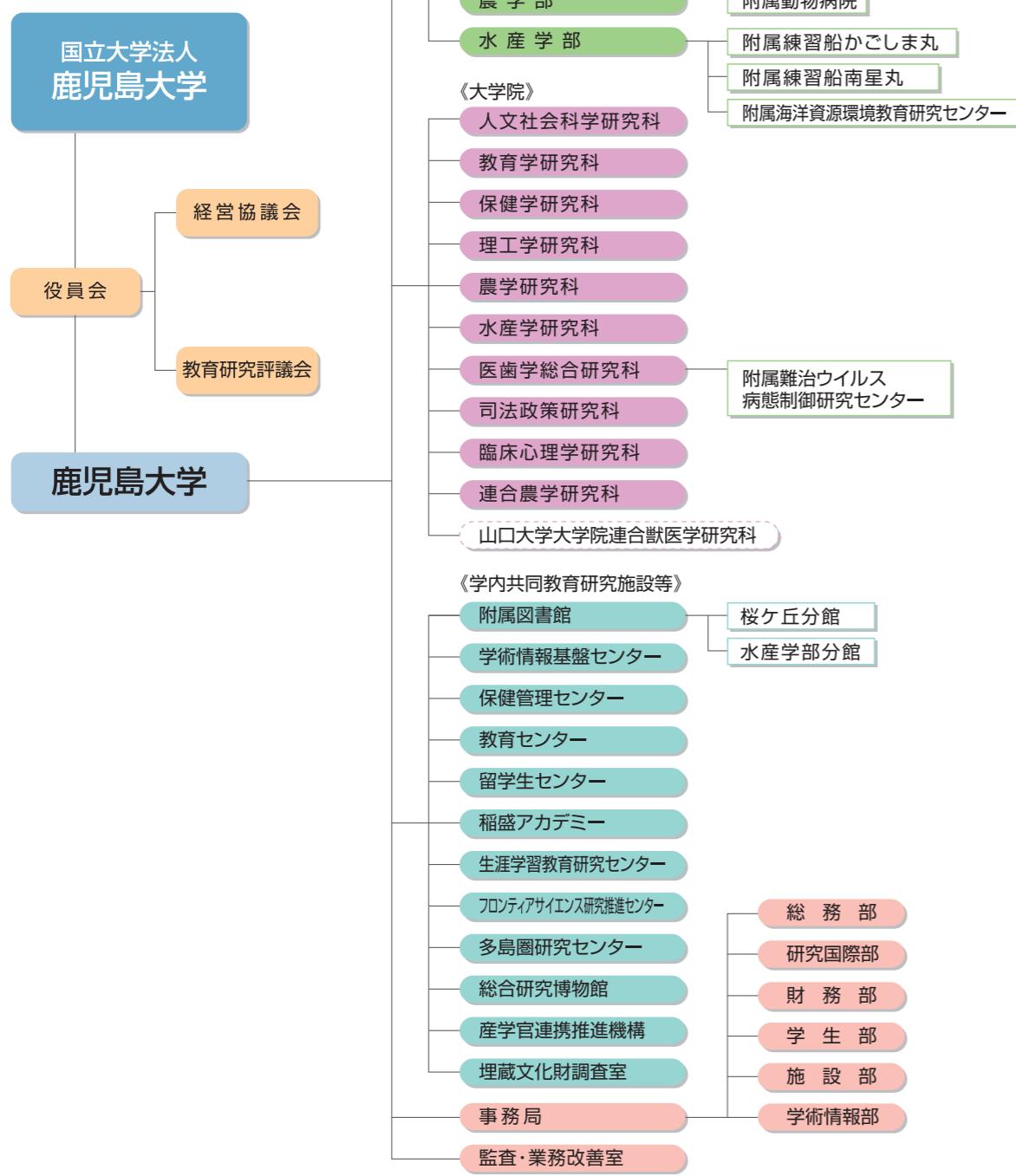
- (1) 教育活動を通じて、環境保全に資する能力と行動力を持つ人材の育成に努める。
- (2) 研究成果とその普及のための活動を通じて、地球環境及び地域環境の保全に努める。
- (3) 地域の特性を踏まえた社会活動を積極的に展開し、地域と一体となって環境保全活動に取り組む。
- (4) これらの諸活動に際し、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、化学物質管理の徹底等を通じて、環境保全と環境負荷の低減に努める。
- (5) 環境保全の目的及び目標を設定し、その達成及び関係法規順守のための環境マネジメントシステムを構築、継続的な改善を図る。
- (6) 環境保全活動の取り組みを学内・外に広く公表する。

平成17年12月28日

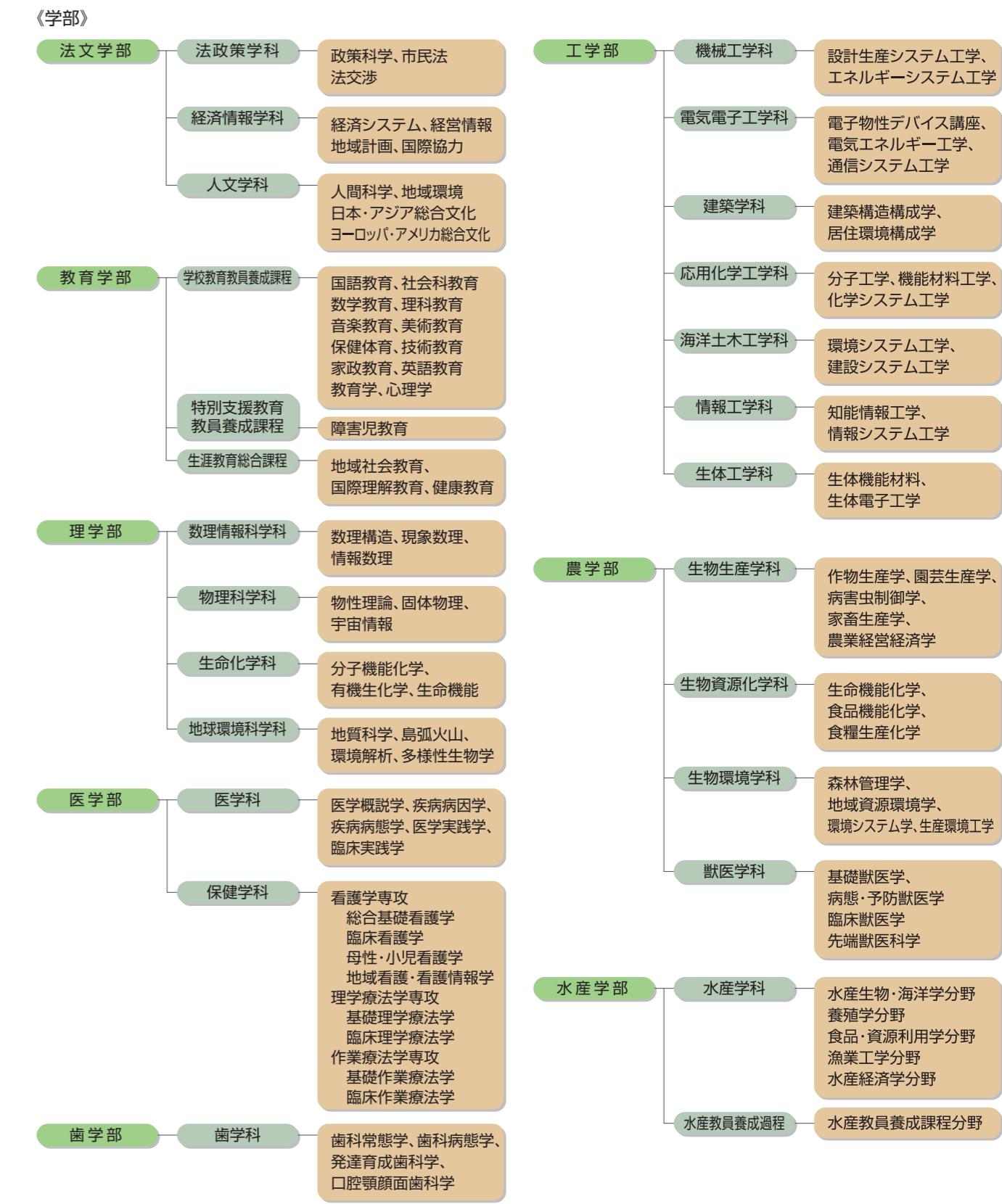
2 大学の概要

2008年5月1日現在

組織図



■教育研究組織



1 学生による環境系ボランティア活動について

■本格焼酎発酵副産物研究会

鹿児島大学では産官学連携推進機構のもとに、大学と民間企業、公的機関等との情報と研究の交流を推進するために、かごしま産学官交流研究会が組織されています。本格焼酎部会はこの17番目の部会として52名の参加を得て、平成19年5月に設置されました。また、JSTサテライト宮崎の支援を得て、焼酎粕をとりまく情勢、環境科学技術の現状を共有し、環境科学技術への取り組みを推進するために、同メンバーによる本格焼酎発酵副産物研究会が発足しました。鹿児島大学での取り組みの紹介、学外講師によるトピックスなど、この研究会はこれまで下記テーマで6回開催されています。

- ①本格焼酎を取り巻く現状と課題
- ②焼酎粕研究の現状
- ③焼酎粕の畜産への有効利用 一経緯と将来――
- ④焼酎粕と国際資源
 - －養殖業における焼酎粕利用の可能性
- ⑤非食料バイオマスからのエタノール生産技術について
- ⑥エコフィード合同シンポジウム
 - (焼酎の世界ブランド化とエコフィード)
- ⑦蟹江松雄賞受賞者講演と「ノルウェーの酒と肴」

この研究会を通じて、焼酎に関心を持つ研究者が連携を図り、産業界の実情を知り連携を深め、効率的な研究推進と成果の迅速な普及が図れることを期待しています。



■かごしまルネッサンスアカデミー

本事業は、文部科学省の科学技術振興調整費によるもので、鹿児島県の醸造や発酵を中心とする食文化の創造と食産業の発展に寄与し、地域の再生に資する人材を育成するために、社会人を対象に開講されているもので、次の3つのコースからなります。

- ①醸造・発酵関連の食品産業における安全と品質管理等に関する高度技術を持つ人材を養成する「食の安全管理コース」
- ②急速な技術革新や市場ニーズの変化に戦略的に対応できる技術マネジメント力を持つ人材を養成する「経営管理コース」
- ③歴史・文化・環境をはじめ健康・長寿の基礎知識など、食を中心とした鹿児島の魅力を情報発信できる人材の要請をめざす「健康・環境・文化コース」

講義の内容は、「焼酎粕とゼロエミッション」をはじめ、「海底地質と環境」、「干潟と環境」、「河川と環境」、「森と環境」など環境関連の幅広い講義が組み込まれ、学内、学外の多彩な講師陣が教育にあたっていますが、焼酎学講座も「食の安全管理コース」における技術指導を中心に行積極的な関与を行っています。2006年11月に開講され、これまで150名を超える修了生を出しています。

《文責 (農学部特任教授) 鮫島 吉廣》

鹿児島大学は、大学憲章において「学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う」と謳っている。このことは、平成20年度を「ボランティア元年」と位置づけるとともに、「鹿児島大学ボランティア支援センター」が設置されたことで一層具体化し、従来のカリキュラムに加えて学生のときから積極的に地域や社会と関わりながら学ぶという新たな学びの創造を開始している。

ボランティア支援センターを中心に支援を開始しているプロジェクトには、「学校での教育補助等ボランティア」「災害地支援ボランティア」「かごしま観光ボランティア」など種々のものがあるが、ここに紹介する「希少生物保護ボランティア」や「キャンバスクリーン」「エコキャンバスプロジェクト」など、環境の保全や保護に学生が積極的に関わる『環境系のボランティア活動』の支援も非常に大きな柱である。

鹿児島大学には、ボランティア支援センターが発足する以前から、多くのボランティア活動団体(学友会サークルや同好会など)が地道に活動してきた実績もあり、その多くが『環境系のボランティア活動』である。鹿児島大学がこうした活動を一層効果的に支援することが、学生の教育はもちろんのこと鹿児島大学の「環境への関わり」をさらに強めることになるはずである。

《文責 (教育・ボランティア担当学長補佐) 大坪 治彦》

●鹿児島大学のボランティア系サークル等

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ◎ウミガメ研究会 | ◎森人(もりんちゅう)クラブ |
| ◎環境サークル 風伝(かぜのつて) | ◎ボランティアサークル H(アッシュ) |
| ◎鹿児島大学総合研究博物館ボランティア | ◎児童心理研究会ちやいころ |
| ◎実験系サークル れとろういるす | ◎つぼみ学級 |
| ◎鹿児島野外活動力ウンセラー協会 | ◎ボランティアサークルC |
| ◎YELL～エール～ | ◎KIND(国際保険医療研究会) |
| ◎鹿児島大学生協学生委員会 | |

■ウミガメ研究会

鹿児島県吹上浜は、日本有数のアカウミガメの産卵地です。ウミガメ研究会は、その吹上浜を主な活動場所とし、アカウミガメの調査、卵の盗掘防止を行っています。

ウミガメの産卵シーズンである5月末から7月末までは、夜の吹上浜で、甲羅の測定、個体識別タグの取り付け、産卵場所のチェックなど、上陸産卵調査を行います。「ウミガメを見たい」という一般の方々と同行し、一緒に砂浜を歩くこともあります。

卵が孵化する8月から9月には孵化調査を行い、孵化数未孵化数を調べると同時に、産卵層から出遅れた子ガメの放流も行います。

また、野間池の漁師さんの漁船に同行し、定置網にかかつたウミガメの調査や、小学校、博物館でのウミガメについての授業も行っています。

ウミガメの上陸数は年々減少してきています。そのウミガメが、今どのような現状にあるのか、自分たちの目で確かめ、多くの人に伝える。それが鹿児島大学ウミガメ研究会の活動目的です。

《水産学部3年 佐々木 岳》



■森人クラブ

森人クラブでは、年間に様々な活動があるが、その中の一つに、垂水小学校5年生を対象として実施される活動がある。



この活動は、第一回に水の源流探検、第二回に森の探検、第三回に林業体験が実施される3部構成となっており、水の循環から森林まで、生活の周囲の環境がテーマになっている。

このうち、第二回目に実施される森の探検は、実際に水の源流を体験してもらった子供たちに、水の貯留地となっている森林について、学んでもらうことを目的としている。

子供たちに、より実際の森林を意識してもらうために、実際に山に入る前に、山にはどのようなものがあるか想像してもらい、それを班単位で一つの絵にしてもらう。次いで、山に入り、実際の森林で、水の浸透実験や、森林の土壤に生息する微生物などの観察を通して、実際の森林を感じてもらう。最後に、実際体験した森林に何があったか、何を体験し感じることが出来たかなどを、体験前に描いてもらった絵に継ぎ足してもらう。

この活動は、僅か1日実施されるだけの活動ではあるが、その意義は、参加する子供たちにとっても、参加するスタッフにとっても非常に大きいと私は思う。実際、活動を通して多くの子供たちは、間違いなく変化していく。

当初は、森林に対する興味を、こちら側から示唆しなけ

ればならないことが多いが、何時しか私たちよりも、子供たちの「気づき」のほうが圧倒的に面白くなって行き、実際幾度となくその発想の豊かさに驚かされ、感心させられた。また、子供たちと自然についての疑問や興味を共有し、子供たちと共に学ぶことは、参加スタッフにとって、本活動の醍醐味である。

実際に山に入り、実際の体験を通じ知る自然は、子供たちにとっては勿論、私たち参加スタッフにとっても、得難い体験である。

《農学部4年 酒瀬川 牧》



主な活動内容は、キャンドルナイト、アースディ、九州環境サミットなどのイベントへの参加や、季節ごとのゴミ拾い、環境についての勉強会の開催などです。

2008年は、様々な環境に関するイベントに出展し、海辺でシーグラスを拾い、それを利用して、キャンドルホルダーやオリジナルマグネットを作る、簡単なワークショップを開きました。そして、訪れた方に、工作をしてもらいながら、なぜこのようなシーグラスがあるのか、ということを考えもらい、市民の方々が環境について考えるきっかけ作りに努めました。

これからも、メンバー一人一人が環境について考え、その意志のもとに、活動を行っていきたいと思っています。

《法文学部3年 通山 こころ》



■環境サークル～風伝～

環境サークル～風伝～(かぜのつて)は、2004年に環境に興味をもつ学生が集って発足しました。

サークル名の風伝は、“どこからともなく吹いてくる風のように、人の心にいつのまにかよい影響を残していく、魅力的な人間になろう”という目標のもとにつけられました。

活動方針は、「それぞれが興味をもったことをする」、というものですので、活動に枠はほとんどありません。また、環境に関する情報をサークル内で共有し、興味のある人が行き、やりたいことがあれば、自由にそれを提案しています。



1 環境省ガイドラインとの対照表

環境省 ガイドライン 項目	環境報告書 記載ページ
(1) 基本的項目 [BI]	BI-1:経営責任者の緒言 3
	BI-2:報告にあたっての基本的要件 1~2
	BI-3:事業の概要 5~9
	BI-4:環境報告の概要 4、11
	BI-5:事業活動のマテリアルバランス 13~18
(2) 環境マネジメント等の環境経営に関する状況 [環境マネジメント指標:MPI]	MP-1:環境マネジメントの状況 4、10
	MP-2:環境に関する規制の遵守状況 12
	MP-3:環境会計情報 一
	MP-4:環境に配慮した投融資の状況 一
	MP-5:サプライチェーンマネジメント等の状況 18
	MP-6:グリーン購入・調達の状況 18
	MP-7:環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況 29~30
	MP-8:環境に配慮した輸送に関する状況 18
	MP-9:生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況 20、23~24、27~28、31~32
	MP-10:環境コミュニケーションの状況 38~42
	MP-11:環境に関する社会貢献活動の状況 33~40
	MP-12:環境負荷低減に資する製品・サービスの状況 21~32
(3) 事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況 [オペレーション指標:OPI]	OP-1:総エネルギー投入量及びその低減対策 13
	OP-2:総物質投入量及びその低減対策 15
	OP-3:水資源投入量及びその低減対策 16
	OP-4:事業エリア内で循環的利用を行っている物質量等 41~42
	OP-5:総製品生産量又は総商品販売量 一
	OP-6:温室効果ガスの排出量及びその低減対策 13~14
	OP-7:大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策 15~16
	OP-8:化学物質の排出量、移動量及びその低減対策 19
	OP-9:廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策 17
	OP-10:総排水量及びその低減対策 16
(4) 環境配慮と経営との関連状況 [環境効率指標:EEI]	環境配慮と経営との関連状況 一
(5) 社会的取組の状況 [社会パフォーマンス指標:SPI]	社会的取組の状況 33~40